

# 令和7年度 第2回 北九州市発達障害者支援地域協議会 次 第

日 時 : 令和8年3月24日(火) 19:00~20:30  
場 所 : 北九州市役所本庁舎3階 大集会室

## 1 開 会

## 2 議 事

### 【報告事項】

令和7年度取組内容の進捗について

(1) 発達障害児者支援における効果的な情報集約や情報発信の具体化

- ・GIS（地理情報システム）の進捗状況について

(2) 発達障害児者支援に関する支援者の交流機会の確保

- ・障害児支援多職種交流会について …別紙1

(3) 強度行動障害支援

- ・中核的人材養成研修について …別紙2
- ・アウトリーチ支援の試行結果について …別紙3

### 【協議事項】

- ・令和8年度 発達障害者支援地域協議会 協議計画（案） …別紙4

### 【その他】

## 3 閉 会



令和7年度 北九州市発達障害者支援地域協議会構成員一覧

所属・団体	氏名
福岡教育大学 教授	中村 貴志
西南学院大学 准教授	倉光 晃子
北九州市医師会 専務理事	長森 健
北九州市医師会 理事	渡辺 恭子
北九州市立総合療育センター 訓練科長	尾首 雅亮
ABC 研究所 代表	今本 繁
北九州市発達障害者支援センターつばさ センター長	金光 律子
北九州障害者しごとサポートセンター 所長	大坪 巧弥
北九州市教育委員会特別支援教育相談センター 所長	千々和 知子
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー	嶋村 美由紀
北九州市自閉症協会 会長	伊野 憲治
北九州市自閉症児者の未来を考える会 会長	藤井 敬太郎
北九州 LD 等発達障害親の会「すばる」 会長	古市 隆司

※ 敬称略、順不同



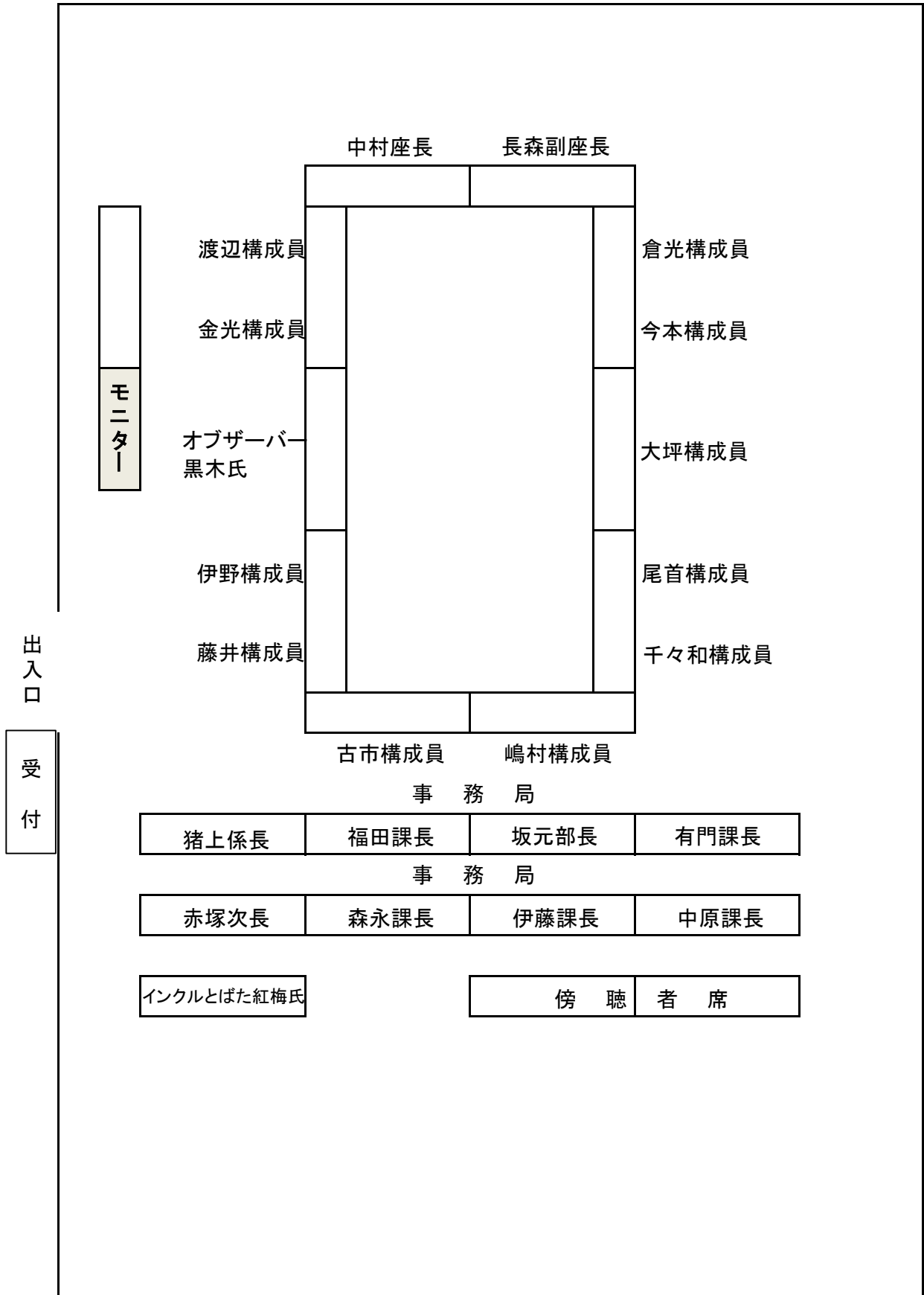
## 事務局名簿

	氏名	職名
1	坂元 光男	保健福祉局 障害福祉部長
2	福田 ルミ	保健福祉局 障害福祉部 精神保健・地域移行推進課長 (発達障害担当課長 兼務)
3	有門 美穂子	保健福祉局 保健所 医務薬務課 医務薬務課長 (発達障害担当課長 兼務)
4	伊藤 京子	子ども家庭局 子ども家庭部 こども施設企画課 指導支援担当課長 (発達障害担当課長 兼務)
5	中原 尚子	子ども家庭局 子育て支援部 子育て支援課 母子保健担当課長 (発達障害担当課長 兼務)
6	赤塚 直人	子ども家庭局 子ども総合センター 次長 (発達障害担当課長 兼務)
7	森永 勇芽	教育委員会 事務局学校教育部 特別支援教育課 特別支援教育課長 (発達障害担当課長 兼務)
8	猪上 徳子	保健福祉局 障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 事業調整係長



令和7年度 第2回北九州市発達障害者支援地域協議会 座席表

【会場:北九州市役所本庁舎3階 大集会室】





## 障害児支援多職種交流会について

発達障害児者支援に携わる支援者が交流できる場について、まずは子ども（発達障害児）の支援に関わる支援者の交流が効果的・効率的に行えるよう、障害者自立支援協議会（事務局：北九州市障害者基幹相談支援センター）の組織の1つである「地域生活関係者交流会」として下記のとおり開催しました。

### ■ 第4回障害児支援多職種交流会

- ・テーマ：事例検討
- ・話題提供：北九州市障害者基幹相談支援センター 辰川 剛
- ・日時：令和8年2月26日（木） 18時30分～20時30分
- ・会場：ウェルとばた2階 多目的ホール
- ・参加者：52名

区分	人数	区分	人数
障害児通所支援事業所	29	相談支援事業所	15
その他障害福祉サービス事業所	3	医療関係	2
教育関係	3		
合計			52



## 中核的人材養成研修について

強度行動障害を有する児者の受け入れ体制強化を図るため、事業所において、チームで支援を行う上で適切なマネジメントを行い、中心的な役割を果たす人材（以下、「中核的人材」という）の養成研修を、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園（以下、「のぞみの園」という）が実施し令和7年度の全プログラムが終了しました。

### 1 令和7年度受講者

#### (1) 中核的人材養成研修（受講者）

- ①社会福祉法人 北九州市福祉事業団（ひよりの丘）より1名
- ②社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会（インクルとばた）より1名

#### (2) 中核的人材養成研修（サブ・トレーナー）

- ①北九州市発達障害者支援センター「つばさ」より1名

### 2 受講期間

令和7年8月8日～令和8年1月29日（全6回）

### 3 令和8年度中核的人材養成研修の受講者選定方法等

#### (1) 選定人数（令和7年度実績を想定）

- ①中核的人材（事業所の中で指導・助言ができる中心的な人材）…2名
- ②サブ・トレーナー（広域的人材として活動が期待される人材）…1名

#### (2) 選定過程

- ①「つばさ」が実施した「令和7年度強度行動障害がある人への支援者養成研修を3回受講し事例検討報告書を提出した者（以下「修了者」。）  
※修了者は14名
- ②修了者の提出書類について審査員が点数付けし上位5名を選出※第一選考
- ③審査員が上位5名に対し面接を行い上位者から受講者を決定※第二選考  
※審査員には学識経験者を含む

#### (3) スケジュール（予定）

- ・3月10日 研修最終日
- ・3月中旬 第一選考（書類選考）結果発送
- ・4月上旬～ 第二選考実施  
4月中旬
- ・4月中旬 第二選考結果（面接）結果発送
- ・5月上旬 のぞみの園へ受講者の推薦書を発送



## 強度行動障害がある人が利用する福祉サービス事業所へのコンサルテーション

## ①目的

(1)強度行動障害がある人が利用している福祉サービス事業へ、専門家チームによるコンサルテーションを実施し、強度行動障害のある人への支援方法や具体的な対応について事業所職員が学び、現場に取り入れる。

(2)上記を毎年継続することによって、北九州市内の福祉サービス事業所職員のレベルアップを図り、その結果、強度行動障害のある人を受け入れることができる福祉サービス事業所を増やし、市全体の強度行動障害のある人への体制整備の構築を図る。

## ②実施方法

(1)令和7年度は、1事業所に5回訪問した。

(2)対象機関は、市内の強度行動障害がある人が利用している生活介護事業所。

(3)専門家チーム（ABC研究所代表：今本繁氏、市内で強度行動障害のある人を長年受け入れ、実績がある福祉サービス事業所所長、発達障害者支援センターつばさスタッフ2名）による事業所全体へのコンサルテーションを行った。

## ③内容

	日時	内容	事業所 参加スタッフ数	事業所準備
1	9月26日 13:30~15:20	対象者の観察・情報共有	2	フェイスシート スキル評価シート 行動特性シート
2	10月28日 15:50~17:15	(講義・演習) 記録と分析について	5	
3	12月8日 16:00~17:45	記録の分析と支援計画の作成	5	スキャッタープロット ABC記録 機能分析
4	1月19日 16:00~17:30	評価と支援計画の見直し	4	ストラテジーシート
5	3月3日 16:00~	フォローアップ	5	支援手順書

## ④アンケート結果

○今回参加した事業所スタッフ5名に、「行動の記録の記入」「支援計画の話し合い」「支援計画後の実践」「今回のコンサルテーションについて」アンケートを実施した。

○「行動の記録の記入」については、全員が「やや難しかった」であった。「記録の取り方など、行動の把握がなかなかできなかった。少しずつ支援の方法など理解できた」「内容を把握することが難しかったが、本人の様子なども明確にでき、職員間で共有できた」という感想があった。

○「支援計画の話し合い」については、経験年数が1年未満1名と20年以上1名の2名のスタッフが、「難しかった」、3人は「やや難しかった」であった。「急に支援のやり方が変更になり、最初は戸惑ったが、段々支援計画の話を実行することができた」「他事業所のやり方などを知り、答えは

すぐには出ない感じだったが、本人にとってよりより支援につながられるようになった」等の感想があった。

○「支援計画後の実践」については、5～10年1名が「難しかった」、4名が「やや難しかった」であった。「職員によって支援のやり方がバラバラだったが、職員間で共有できてきた」「いざ実践すると、効果がすぐ出ることと、徐々に効果が出ることもあり、今後長いスパンでよりよい支援を継続する必要がある」との意見・感想があった。

○「今回のコンサルテーション」については、全員が「有効であった」と回答していた。「自分自身の勉強になり、利用者の様子の変化が見られるので、利用者のためにもっと取り組みたいと思った」「利用者支援に関して、職員間で話し合い、実践し、効果が出るという経験をし、今後他の利用者への支援に対しても、同様に取り組んでいきたいという意欲を持つようになった」等前向きな感想が多かった。

#### ⑤まとめ・今後の課題

○複数の機関で支援チームを組み、コンサルテーションを実施することは、「本人の特性理解」や「支援の手立て」等について、多角的な意見が得られるため、事業所側にとっては参考になる事柄が多かったと思われる。

○専門家チームの一員が、他機関へのコンサルテーションの手法について学ぶ機会になった。そのため、来年度以降も、強度行動障害のある人を長年受け入れ、実績がある福祉サービス事業所スタッフが専門家チームに参加することにより、有益なコンサルテーションを実施できる人材の育成につながる。

○今年度の対象事業所は、事業所内で中核となるスタッフが自閉症の特性や応用行動分析の知識があったため、事業所に準備してもらった資料の内容については、理解できていたと思われる。来年度以降は、対象事業所の構成メンバーやスタッフの知識・状況等に適した資料作成及び専門家チームのサポートの度合いを考えていく必要がある。

○事例を通して「必要な資料やデータ収集」「分析方法」「自閉症の特性理解」「支援計画」等を、専門家チームと対象者に関わる事業所スタッフ全員で情報共有・協議することによって、課題となる行動の捉え方や手立てへの道筋を、現場スタッフが学ぶ機会となった。今後は、今回学んだ支援手法を、事業所全体に般化させていくことが課題のひとつである。

○事業所のスキルアップのためには、「事業所内での事例検討」「専門的な研修会への参加」「定期的なコンサルテーションの機会」及び「中心となるリーダーの存在」が必要であるが、このシステムの重要性を、事業所管理責任者がどの程度認識しているかが要である。

令和7年度強度行動障害がある人が利用している福祉サービス事業所への

コンサルテーション 職員アンケート結果

令和8年3月3日

1. 障害者福祉に携わった経験年数を教えてください

1年未満	1人
1年～3年未満	2人
3年～5年未満	
5年～10年未満	1人
10年～20年未満	
20年～30年未満	1人
30年以上	
計	5人

2. 「行動の記録」の記入について

経験年数	人数	難易度	理由
1年未満	1	やや難しかった	・始めは記録の仕方が難しかったが、徐々に慣れていくことができた。
1～3年	2	やや難しかった	記録の取り方など、行動の把握がなかなかできなかった。少しずつ支援の方法など理解できた。 ・内容の理解が難しかったが、本人の様子なども明確にでき、職員間も共有できた。
5～10年	1	やや難しかった	・どのタイミングで目的の行動が出ているか視覚化でき、対策を練ることができた
20～30年	1	やや難しかった	・慣れるまでは、記入し忘れてたり、難しい点もあった。行動問題の頻度や起こる時間帯が明確にわかるようになり、支援に役立った。

3. 「支援計画」の話し合いについて

経験年数	人数	難易度	理由
1年未満	1	難しかった	・勉強不足でついていけない所があった。自身の悩みについては伝えることができた。
1～3年	2	やや難しかった	・急に支援のやり方などが変更になって、最初は戸惑ったが、段々支援計画の話を実行することができた。 ・他事業所のやり方などが知れ、答えはすぐに出ない感じだったが、本人にとってよりよい支援につながられるようになった。

5～10年	1	やや難しかった	・どのような取り組みをしたらいいか、考えるほど行き詰ってしまった。
20～30年	1	難しかった	・知識のなさやアセスメントが不十分なこともあり、話し合いはとても難しかった。もっと活発に意見を出せるように勉強しなければいけないと感じた。

#### 4. 「支援計画」後の実践について

経験年数	人数	難易度	理由
1年未満	1	やや難しかった	・利用者にとっては慣れないことなので、始めは苦戦した部分もあったが、徐々に利用者も慣れていき、効果を実感できた。
1～3年	2	やや難しかった	・支援方法が、職員のやり方がバラバラだったが、職員間で共有できてきた。 ・ダメなら次のパターンで…とすることで、本人も少しずつ穏やかに過ごせてきたので、難しかったがよかったと思う。
5～10年	1	難しかった	・いざ実践すると、効果がすぐ出ることと、徐々に効果が出ることもあり、今後長いスパンでより良い支援を継続する必要があると感じた。
20～30年	1	やや難しかった	・取り組み開始直後は、利用者を戸惑わせてしまい、大声を出すことが増えてしまった。支援方法の改善がまだまだ必要であると感じた。

#### 5. 今回のコンサルテーションについて

経験年数	人数	有効性	理由
1年未満	1	有効だった	・実践後すぐに効果が表れ、有効的だった。
1～3年	2	有効だった	・なかなか質問できなかったが、話をすると、有効な答えを出していただき、安心して支援ができた。 ・緊張で、あまり答えることができなかったが、情報共有し、よりよい支援ができ、利用者が不穏なく安心して過ごせてもらえるように近づいてきた。
5～10年	1	有効だった	・自分自身の勉強になり、利用者の様子の変化が見られるので、利用者のためにもっと取り組みたいと思った。
20～30年	1	有効だった	・利用者支援に関して、職員間で話し合い、実践し、効果が出るという経験をし、今後他の利用者への支援に対しても、同様に取り組んでいきたいという意欲を持つようになった。

6. その他、ご感想やご意見、改善点などございましたら、ご自由にお書きください

経験年数	人数	記述
1年未満	1	・ 障害者福祉に携わって1年未満で、わからないことが多い中、とてもためになることばかりで、まだまだ勉強不足な点が多くあった。今回学んだことを今後を活かし、支援をしていきたい。
1～3年	2	・ 他の利用者のことや支援の勉強ができたらいと思う。 ・ 違う利用者で、この勉強会ができたらと思った。
5～10年	1	・ 今後、率先して支援に対して勉強し、取り組みたい。
20～30年	1	・ 職員間での話し合いが十分ではなく、なかなか意見も出せず、反省することが沢山あった。今回学ばせていただいたことを、今後の支援に活かし、職員間のチームワークを大事にしながら、今まで以上に1人1人の利用者と向き合っていきたいと思う。



## 令和8年度 発達障害者支援地域協議会 協議計画（案）

## 1 取組の方向性

令和7年度の取組を推進していくため、これまでの取組状況を踏まえながら、引き続き以下の内容に取り組みます。

## 2 主な取組内容

(1) 強度行動障害児者に対する支援 …別紙5

## ①集中的支援体制の整備

・状態の悪化した強度行動障害を有する児者への集中的支援について…別紙6

## ②知識やスキルを地域に広げるための中核的人材の派遣

令和7年度中核的人材養成研修の受講者を「つばさ」が実施する研修の講師として派遣や、事業所等へのコンサルテーションに同行してもらうことで、本人のさらなる知識・経験の向上を図り、その知識や経験を他事業所の職員等に広げていきます。

## ③在宅の児者に対する支援

「つばさ」を中心として在宅の強度行動障害児者の支援方法について検討します。

(2) 地域の支援者と連携しやすい体制づくり

地域の支援者（民生委員・相談支援専門員等）が集まる既存の場へ参加し、発達障害支援についての啓発や意見交換等をします。

## 3 実施回数

年2回を予定（8～9月、2～3月）



## 北九州市内の強度行動障害児・者数について

## 1 強度行動障害児・者数について(令和8年1月時点)

昨年度と同様の抽出方法で強度行動障害児者の人数を抽出した

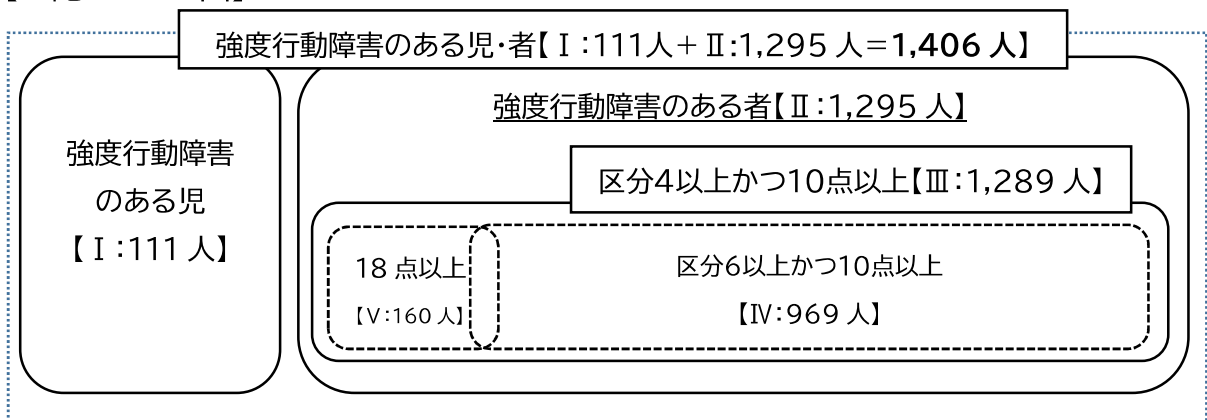
種別	在宅	施設入所		総数
		者の施設	児の施設	
I 強度行動障害「児」(18歳未満)	110人	0人	1人	111人
II 強度行動障害「者」(18歳以上)	619人	676人	0人	1,295人
III 区分4以上かつ10点以上	615人		674人	1,289人
IV 区分6以上かつ10点以上	412人		557人	969人
V 18点以上※「者」のみ	71人		89人	160人

※行動援護スコア(行動関連項目等(12項目))及び障害者支援区分を用いて抽出

※「施設入所者」は、障害者支援施設・療養介護・GH・福祉型障害児入所施設・医療型障害児入所施設のいずれかの支給決定を受けているものとする

※Ⅲ、Ⅳには「児」は含まない(児には区分がないため)

## 【上記イメージ図】



## 【参考】

■令和6年7月調査時

種別	在宅	施設入所		総数
		者の施設	児の施設	
I 強度行動障害「児」(18歳未満)	76人	0人	1人	77人
II 強度行動障害「者」(18歳以上)	536人	631人	0人	1,167人
III 区分4以上かつ10点以上	532人		631人	1,163人
IV 区分6以上かつ10点以上	357人		511人	868人
V 18点以上	54人		93人	147人



## 状態の悪化した強度行動障害を有する児者への集中的支援について（抜粋）

### 1 趣旨

強度行動障害のある児者の状態が悪化し、現状の障害福祉サービス等の利用や生活を維持することが難しくなったケースについて、北九州市（予定）が認定する広域的支援人材や施設を活用してアセスメントや環境調整により集中的に支援します

### 2 加算の概要

- (1) 集中的支援加算（Ⅰ） 1000単位／日 ※事業所訪問型  
広域的支援人材が状態の悪化した児者が利用する事業所を訪問し、事業所の支援者と協力しながら集中的支援を実施します（3月以内で1月に4回限り）
- (2) 集中的支援加算（Ⅱ） 500単位／日 ※居住支援活用型  
状態が悪化した児者の居住の場を一時的に移し（居住支援系サービス事業所を活用）、そこに広域的人材が訪問し、当該事業所の支援者と協力しながら集中的な支援を実施  
※集中的支援加算（Ⅱ）を算定する場合は、集中的支援加算（Ⅰ）も算定可能

### 3 選定条件

#### (1) 広域的支援人材

以下のア～ウのいずれかに該当する者から選定し、集中的支援の実施に関する役割等を説明し、同意が得られた者を選定する

- ア 中核的人材養成研修の講師等（ディレクター・トレーナー）である者  
イ 発達障害者支援体制整備事業による発達障害者支援地域支援マネージャーである者  
ウ その他強度行動障害を有する児者への支援に知見を有すると都道府県等が認める者

※イ及びウは、強度行動障害を有する児者への支援に知見を有する者（事業所等へのコンサルテーションの経験等がある者）であって、国が実施している強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）（※1）に自治体の推薦を受けて参加した経験があることや、都道府県が実施している強度行動障害支援者養成研修会の企画や講師・ファシリテーター等の取りまとめ等を行う役割を担っている者であることが望ましい

※1 令和7年度は都道府県からの推薦枠（福祉関係者2名、教育関係者1名）のみで指定都市からの推薦枠はない

#### (2) 居住支援活用型の集中的支援（加算（Ⅱ））を実施する施設

以下の要件アを必ず満たすとともに、イ又はウのいずれかに該当している施設等から選定し、集中的支援の実施に関する役割等を説明し、同意が得られた施設を選定する

- ア 施設入所支援においては、重度障害者支援加算（Ⅱ）又は（Ⅲ）、共同生活援助・短期入所においては、重度障害者支援加算（Ⅰ）又は（Ⅱ）を算定できる体制があること（※1）。障害児入所施設においては、強度行動障害児特別支援加算（Ⅰ）を算定できる体制があること（※2）
- イ 強度行動障害を有する児者への標準的支援についての外部専門家を活用したコンサルテーションを継続的に受けていること
- ウ 都道府県が実施している強度行動障害支援者養成研修への講師・ファシリテーター等の派遣に協力していること

※1 【体制】生活指導員のうち20%以上の基礎研修修了者を配置し、区分6（又は区分4以上）かつ行動関連項目10点以上の者に対して、強度行動障害支援者養成研修（実践研修）修了者を配置し支援計画シート等を作成し当該計画に基づき個別支援を行う

※2 【体制】医師、心理担当職員を配置。対象児4人につき児童指導員1加配。強度行動障害支援者養成研修（実践研修）修了者を配置し、支援計画シートを作成し当該計画に基づいて支援を行う

【設備】居室は原則個室。児が興奮時に落ち着くための空間・設備を設ける



毎年4月2日は国連の定めた世界自閉症啓発デー  
**世界自閉症啓発デー**  
**in北九州2026**

映画上映「ノルマル17歳。ーわたしたちはADHDー」



令和8年

**4月5日** 日 13:00 開演  
(12:30 開場)

【会場】 J:COM北九州芸術劇場 中劇場  
(<https://q-geki.jp/>)

【定員】 300名(先着順)

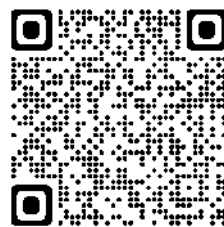
【参加費】 **無料** 27日※なので、申込状況を当日、  
金光センター長に確認しておきます

【申込期間】 2月25日(水)～3月27日(金)  
(定員になり次第締め切ります)

\*花見シーズンと重なるため、周辺の駐車場は混雑が  
予想されます  
公共交通機関のご利用、またはお早めにお越しください

【申込み方法】

右記QRコードから  
お申込みください



(<https://www.tsubasa.kitaq-src.jp/event.html>)

※QRコード以外でお申込の方は、下記までご連絡ください  
北九州市発達障害者支援センター「つばさ」  
【TEL】 093-922-5523  
【HP】 <https://www.tsubasa.kitaq-src.jp/>

4月2日～8日は発達障害啓発週間です

より多くの方に発達障害のことを理解してもらい、誰もが暮らしやすい共生社会を願って、  
世界中のランドマークが啓発デーのイメージカラーである「**ブルー**」にライトアップされます。

※国連が定める啓発デーには、3月21日の「世界ダウン症の日」もあります。



**図書館啓発コーナー**

【市立図書館内】  
関連図書を集めたコーナーを  
設置します  
※期間は図書館によって異なります

**掲示ブース**

4月2日～8日  
北九州市障害者スポーツセンター  
「アレアス」に掲示ブースを  
設置します  
\*4月7日は休館日です

**ライトアップ**

4月6日～8日 小倉城  
4月2日～8日 門司港駅舎  
小倉駅・黒崎駅周辺  
チャチャタウン(観覧車)

\*天候等の都合によりライトアップされない日もあります





令和7年度 北九州市発達障害者支援センター事業経過報告

1. 研修

テーマ	日程	講師	定員 参加人数 (市・ 県)	会場
発達障がい者支援のための 初級セミナー	6月28日(土) ～29日(日)	川崎医療福祉大学医療保育科 講師 重松孝治氏 川崎医療福祉大学 准教授 諏訪利明氏	100 (45・ 48) (44・ 46)	ウエルとばた 多目的ホール
発達障がい児者の理解と支援	8月3日 (日)	元北九州市立総合療育センター 小児科 河野義恭氏	100 (93・ 37)	ウエルとばた 多目的ホール
発達障害について学ぶ市民講 座ー場面緘黙の理解と支援ー	11月9日(日)	かんもくネット 角田圭子氏	100 (117)	ウエルとばた 多目的ホール
子 育 て 支 援 研 修 会	発達障がいの理解と対応	9月17日 (水)	70 (39・5)	ウエルとばた 会議室
	コミュニケーションを育 てる関わり	10月1日 (水)	70 (43・ 10)	
	ADLの支援を課題分析で 考える	10月16日 (水)	70 (41・4)	
	福祉サービスについて	10月29日 (水)	70 (32・5)	
強度行動障害支援者養成研修	10月15日 (水)	厚生労働省 発達障害施策調整官 山根和史氏 福岡障害者支援センター 理事長 野口幸弘氏	100 (92)	ウエルとばた 多目的ホール
	12月5日(金)	西南学院大学	36 (19)	アシスト21 講堂
	3月10日 (火)	准教授 倉光晃子氏	36 (17)	つばさ会議室
発達障がい者のための就労支 援～社会参加が不安な方の就 労支援を考える～	2月15日 (日)	子ども・若者応援センター[YELL] 平山 みゆき氏 北九州市ひきこもり地域支援 センター「すてっぷ」 センター長 三谷恵氏 当事者 2名	120 (39・12)	ウエルとばた 多目的ホール

○「強度行動障害支援者養成研修会」について

① 目的

(1) 施設長等管理者向け研修会を開催し、北九州市において、強度行動障害支援者養成や地域体制作りについての重要性を認識してもらう。

(2) 県主催等の強度行動障害支援者養成研修会（実践）修了者対象にフォローアップ研修を実施し、

講義や事例検討を通じて、具体的な対応方法について学び、現場に取り入れる。

(3) 上記の受講者から2名、国が開催している「中核的人材養成研修会」推薦の参考にする。また、北九州市の強度行動障害支援推進人材として活用する。

② 受講対象者

10月	強度行動障害支援者養成研修（実践）の修了者で、北九州市内の事業所に勤務している方及びその方が所属している事業所の施設長、管理者、サービス管理責任者、サービス提供責任者等
12、3月	強度行動障害支援者養成研修（実践）の修了者で、北九州市内の事業所に勤務している方

③ 内容

日 時	内 容	講 師
令和7年10月15日 (水) 13:15~16:00	行政説明 講義「強度行動障害がある人を地域で支える体制作り」	厚生労働省 山根和史氏 福岡障害者支援センター 野口幸弘氏
令和7年12月5日 (金) 10:00~16:00	講義「強度行動障害がある人への支援とは」 モデルケースによる事例検討	西南学院大学 倉光晃子氏
令和8年3月10日 (火) 13:30~16:30	受講者ケースによる事例検討	

④ 結果

○10月15日

- ・参加者は、「入所施設」「生活介護事業所」「放課後等デイサービス事業所」の順に多かった。
- ・行政については約90%、講義については約80%が「理解できた」「少し理解できた」という結果であった。
- ・「強度行動障害のある人への対応は、本人以外の環境要因が大きいと改めて感じた」、「目の前の行動への対処に注目しがちであるが、日常生活支援やPBSの視点が、改めて勉強になった」や「強度

行動障害は、本当に本人が困っている状態だと思う。地域連携を図りながら、閉鎖的な支援にならないようにすることが大切だと思う」等の感想・意見が多かった。

○12月5日

- ・参加者は、「児童発達支援センター・事業所」が最も多く、次いで、「生活介護事業所」「放課後等デイサービス事業所」が同数であった。
- ・講義については94%、事例検討については82%が、「理解できた」という結果であった。残りは、「やや理解できた」であった。
- ・講義については、「ABC分析や、機能的アセスメントの勉強になった」「とてもわかりやすかった(多数)」であった。事例検討については、「様々な視点からのまとめや、支援方法を学ぶことができた」「グループワークで、いろいろな意見を聞くことができよかった(複数)」という感想であった。

○3月10日

- ・参加者に事前に提出してもらった事例から代表事例を3つ決め、3つのグループに分かれて、「支援手順書」についての討議を行った。
- ・グループ討議については、76%が「理解できた」、24%が「少し理解できた」という結果であった。参加者からは、「様々な考え方について、話し合うことができよかった」「自分の事業所でも取り入れていきたいことが、多くあった」等の意見があった。
- ・事前課題については、18%が「大変難しかった」、47%が「やや難しかった」、35%が「どちらでもない」であった。参加者から、「丁寧に整理、分析をする機会になった」「自分たちが取り組んでいることを見直す機会になった」等の意見・感想があった。
- ・その他、「この研修に感謝している」「根拠のある支援や、現場の実現可能性を目指して学びたい」「気づきや学びが多かった」等の感想があった。

## 2. 普及・啓発

「自閉症啓発デー」

親の会3団体、つばさ、市（精神保健・地域移行推進課）による実行委員会にて実施

①令和7年4月6日（日）13:30～15:00 北九州芸術劇場中ホール

「それだけが僕の世界」映画上映 222名参加

②ブルーライトアップ

小倉城（4月2日～4日）

門司港駅舎・小倉駅・黒崎駅周辺・チャチャタウン観覧車（4月2日～8日）

③ポスター展示

障害者スポーツセンター「アレアス」（4月3日～9日）

④北九州市各区の図書館に、発達障害に関する本の展示（3月下旬から約1ヶ月間）

## 3. 家族を対象とした勉強会

①「発達や行動が気になる子ども」の勉強会

「未就学児から小学生までのお子さんをお持ちの保護者」対象と「中学生以上のお子さんをお持ちの保護者」対象の2グループの定員を10名ずつとした。昨年度は日にちを分けていたが、今年度は同日の午前（10:00～11:30）と午後（13:30～15:00）に実施するようにした。

日程	内容	人数
9月24日（小学生以下）	ペアレント・プログラムに学ぶ①	3・2

(中学生以上)	自分のことを「行動で書く！」	3・1
10月8日(小学生以下)	ペアレント・プログラムに学ぶ②	4・3
(中学生以上)	子どものことを「行動で書く！」	3・1
10月22日(小学生以下)	ペアレント・プログラムに学ぶ③	4・2
(中学生以上)	「行動をカテゴリーに分けてみよう！」「ぎりぎりセーフ！を見つけよう！」	3・1
11月5日(小学生以下)	先輩保護者に学ぶ	3・2
(中学生以上)		3・1

②高機能の発達障害児者をもつ家族を対象とした保護者勉強会（アドバイザー：納富恵子氏）

<対象者>つばさに相談がある高機能発達障害児者を持つ家族

日程	グループ	テーマ	人数
3月4日	学齢期	子どもに決定させる導き方について	4
	成人期	自立に向けて活用できる資源	7

4. 強度行動障害がある人が利用する福祉サービス事業所へのコンサルテーション

①目的

(1)強度行動障害がある人が利用している福祉サービス事業へ、専門家チームによるコンサルテーションを実施し、強度行動障害のある人への支援方法や具体的な対応について事業所職員が学び、現場に取り入れる。

(2)上記を毎年継続することによって、北九州市内の福祉サービス事業所職員のレベルアップを図り、

その結果、強度行動障害のある人を受け入れることができる福祉サービス事業所を増やし、市全体の強度行動障害のある人への体制整備の構築を図る。

②実施方法

(1)令和7年度は、1事業所に5回訪問した。

(2)対象機関は、市内の強度行動障害がある人が利用している生活介護事業所。

(3)専門家チーム（ABC研究所代表：今本繁氏、市内で強度行動障害のある人を長年受け入れ、実績がある福祉サービス事業所所長、発達障害者支援センターつばさスタッフ2名）による事業所全体へのコンサルテーションを行った。

③内容

	日時	内容	事業所 参加スタッフ数	事業所準備
1	9月26日 13:30~15:20	対象者の観察・情報共有	2	フェイスシート スキル評価シート 行動特性シート
2	10月28日 15:50~17:15	(講義・演習) 記録と分析について	5	
3	12月8日	記録の分析と支援計画の作成	5	スキャッタープロット

	16:00～17:45			ABC 記録 機能分析
4	1月19日 16:00～17:30	評価と支援計画の見直し	4	ストラテジーシート
5	3月3日 16:00～	フォローアップ	5	支援手順書

#### ④アンケート結果

- 今回参加した事業所スタッフ5名に、「行動の記録の記入」「支援計画の話し合い」「支援計画後の実践」「今回のコンサルテーションについて」アンケートを実施した。
- 「行動の記録の記入」については、全員が「やや難しかった」であった。「記録の取り方など、行動の把握がなかなかできなかった。少しずつ支援の方法など理解できた」「内容を把握することが難しかったが、本人の様子なども明確にでき、職員間で共有できた」という感想があった。
- 「支援計画の話し合い」については、経験年数が1年未満1名と20年以上1名の2名のスタッフが、「難しかった」、3人は「やや難しかった」であった。「急に支援のやり方が変更になり、最初は戸惑ったが、段々支援計画の話を実行することができた」「他事業所のやり方などを知り、答えはすぐには出ない感じだったが、本人にとってよりより支援につながられるようになった」等の感想があった。
- 「支援計画後の実践」については、5～10年1名が「難しかった」、4名が「やや難しかった」であった。「職員によって支援のやり方がバラバラだったが、職員間で共有できてきた」「いざ実践すると、効果がすぐ出ることと、徐々に効果が出ることもあり、今後長いスパンでよりよい支援を継続する必要がある」と等の意見・感想があった。
- 「今回のコンサルテーション」については、全員が「有効であった」と回答していた。「自分自身の勉強になり、利用者の様子の変化が見られるので、利用者のためにもっと取り組みたいと思った」「利用者支援に関して、職員間で話し合い、実践し、効果が出るという経験をし、今後他の利用者への支援に対しても、同様に取り組んでいきたいという意欲を持つようになった」等前向きな感想が多かった。

#### ⑤まとめ・今後の課題

- 複数の機関で支援チームを組み、コンサルテーションを実施することは、「本人の特性理解」や「支援の手立て」等について、多角的な意見が得られるため、事業所側にとっては参考になる事例が多かったと思われる。
- 専門家チームの一員が、他機関へのコンサルテーションの手法について学ぶ機会になった。そのため、来年度以降も、強度行動障害のある人を長年受け入れ、実績がある福祉サービス事業所スタッフが専門家チームに参加することにより、有益なコンサルテーションを実施できる人材の育成につながる。
- 今年度の対象事業所は、事業所内で中核となるスタッフが自閉症の特性や応用行動分析の知識があったため、事業所に準備してもらった資料の内容については、理解できていたと思われる。来年度以降は、対象事業所の構成メンバーやスタッフの知識・状況等に適した資料作成及び専門家チームのサポートの度合いを考えていく必要がある。
- 事例を通して「必要な資料やデータ収集」「分析方法」「自閉症の特性理解」「支援計画」等を、専門家チームと対象者に関わる事業所スタッフ全員で情報共有・協議することによって、課題とな

る行動の捉え方や手立てへの道筋を、現場スタッフが学ぶ機会となった。今後は、今回学んだ支援手法を、事業所全体に般化させていくことが課題のひとつである。

- 事業所のスキルアップのためには、「事業所内での事例検討」「専門的な研修会への参加」「定期的なコンサルテーションの機会」及び「中心となるリーダーの存在」が必要であるが、このシステムの重要性を、事業所管理責任者がどの程度認識しているかが要である。

## 5. ペアレント・メンター事業

### ①今年度の活動

登録メンター数 22名

「気になる子どもの相談カフェ」 毎回1名ずつ

(一丁目の元気) 4/24 6/26 8/28 12/25

(穴生銀杏庵) 5/15 9/18 1/15

「保護者勉強会:先輩保護者に学ぶ」 未就学児～小学生 1名、中学生以上 1名

「児童発達支援センター保護者勉強会～子育てについて～」 1名

### ②応用研修

第1回 2月25日 10:00～11:30 「きょうだいの話」

講師: きょうだい2名

## 6. 当事者を対象としたプログラム等

### ①生活支援プログラム

(対象) つばさに相談がある、在宅でどこにも所属していない相談者 (登録2名)

(内容) つばさに定期的 (2/M、1/M等)に通ってもらい、軽作業を行う。福祉サービス事業所や次のステップに繋ぐことを目的とする。

### ②ソーシャルクラブ (成人期当事者会)

5月～2月 計8回実施

(対象) つばさに相談がある成人の相談者

6名登録

(内容) 「室内でのレクリエーション活動」、「外出」、「テーマに基づく話し合い」、「活動計画の話し合い」「講話」「DVD鑑賞」など。同じ悩みをもつ仲間同士の居場所、余暇活動を提供。

日程	時間	場所	活動内容
5月26日	15:00～16:30	つばさ	自己紹介 (お気に入りのもの)、今年度の活動計画 レクリエーション (それは何でしょうゲーム)
6月23日	15:00～16:30	つばさ	レクリエーション (Wii-U) DVD鑑賞の話し合い
7月28日	15:00～16:30	つばさ	室内活動 (DVD鑑賞) (話し合い活動)
9月8日	15:00～16:30	つばさ	アイスブレイク (北九州の歴史の講話) 外出活動の話し合い
10月20日	午後	外出	外出活動 (小倉城)

11月17日	15:00~16:30	つばさ	室内活動（トランプ、クイズ）調理活動の話し合い
12月15日	15:00~16:30	若園市民センター	調理活動(チョコチップスコーン)
2月16日	15:00~16:30	つばさ	アイスブレイク（ラジオ体操）、今年度の振り返り 次年度の計画

※ 毎回2~5名が参加。

7. サポートファイル「りあん」の普及

保護者・本人：62（旧式31：新式31）冊

支援者：123（全て新式）冊